

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024年 8月 1日

事業所名: 運動習慣促進Schoolあひま吹田片山校

評価項目	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	説明や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
標準	1) 利用者が指導員・保護者等スペースとの関係で適切である	100%	0%	十分なスペースを確保できている	
	2) 職員の配置数は適切である	100%	0%	適切な職員数確保している	
	3) 事業所の設備等について、バリアフリー化の取組が適切になされている	88%	12%	取組がなくなりバリアフリーの取組ができていないが、車椅子等は設置している	利用者のニーズにあわせていく(現在は、ニーズがない)
業務改善	4) 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)は、広く職員が参加している	75%	25%	迅速に起こせるように計画している	空室清掃等の業務の清掃・点検も職務付けていく
	5) 保護者や関係機関等を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向や課題を把握し、業務改善につなげている	88%	12%	業務内容の精選・取組のため職員間でコミュニケーションを取りやすい雰囲気づくりを各職員が実施している	業務改善時は毎回だけでなく、結果も踏まえて更なる改善を図っていく
	6) この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	0%	100%	ホームページなどで公開を検討している	今更が切迫の課題・調査である。保護者やご利用者の声を真摯に受け止めていく必要がある
	7) 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%	今後、実施を検討している	現在は、行っていないが今後実施を検討していく
	8) 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	月1回の職員研修と、外部の研修にも積極的に参加している	研修内容の精度を上げていく
	9) アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に把握した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	対面によるアセスメントを中心に、聞き取りを行い見聞書きを中心にチームでの分析を行い作成している	より、利用者のニーズにあわせて計画を作るべく、精度を高めていく
	10) 子どもの活動行動の状態を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	88%	12%	少しずつ、特定の児童に対しては状況などのアセスメントツールを使用している	より多くの児童に活用していく
	11) 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	専門職や支援員がそれぞれの立場での意見を出しきって立案している	より、利用者にとって良いものになるように精度を高めていく
	12) 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	楽しく取り組めるように工夫している	基本のプログラムを中心に、レベルや趣向にあわせて調整を実施していく
	適切な支援の提供	13) 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して実施している	88%	12%	きめ細かな設定心がけており、時期などに際してはやっていない
14) 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで放課後等デイサービス計画を作成している		100%	0%	プログラム等は保育士・PT・STを中心に内容を考案している	機能改善はもろんだが、ご利用者様が楽しめるかどうかの視点も大切にしている
15) 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		75%	25%	なるべく短時間で終わるように内容の吟味などPDHに努めている	時間の確保に努めていく
16) 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		90%	10%	なるべく実施できるようなつとめている	時間の確保に努めていく
17) 日々の支援に関して定期的に振り返りを行うことを徹底し、支援の精度・改善につなげている		100%	0%	実施記録や日報など、記録を徹底している	検証からの改善に繋げていく
18) 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の意思の必要性を判断している		100%	0%	保護者や本人からの要望があれば対応している。基本は毎月	精度を高めていく
19) ガイドラインの原則の基本活動と支援の組み合わせを支援を行っている		100%	0%	B領域を重視し、組み合わせを支援を行っている	精度を高めていく
20) 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した職員も参加している		60%	40%	開催される場合、参加だけでなく、各専門職が参加している	そもそも開催がされないもので、相談支援員に働きかけていく
21) 学校との連携共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の調整等)、遠隔相談(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている		0%	100%	保護者や学校などからのニーズがないので実施していない	ニーズがあれば対応していく
22) 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		0%	100%	申し込み自体がない	ニーズがあれば対応していく
関係機関や保護者との連携	23) 放課前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有を相互積極に努めている	0%	100%	保護者や関係機関からのニーズがないので実施していない	ニーズがあれば対応していく
	24) 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それぞれの支援内容等の情報を連携している	0%	100%	想定されるケースがない	ケースがあれば対応していく
	25) 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	88%	12%	連携はしていないが、参加できる研修には参加するようになっている	連携を模索していく
	26) 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%	機会はない	ニーズがあれば対応していく
	27) (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%	参加していない	ニーズがあれば対応していく
	28) 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時や電話での対応などを行っている	精度を高めていく
	29) 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	50%	50%	希望があれば対応している	ニーズがあれば対応していく
保護者への説明責任	30) 運営経緯、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	88%	12%	入所時や質問があれば、見聞書きで丁寧に説明している	行っていることを広く発信していく
	31) 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	75%	25%	入所時や質問があれば、見聞書きや支援員が丁寧に説明している	ダブルスタンダードにならないように見聞書きの統一化を図る
	32) 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%	ニーズがないので実施していない	ニーズがあれば対応していく
	33) 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	88%	12%	見聞書きや各専門職が解決に向けて、適切に対応を行っている	より迅速かつ適切に対応できるシステムを整えていく
	34) 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	0%	100%	口頭などで伝えることが中心	HPやSNSなどのツールを活用しての発信を検討している
	35) 個人情報に十分注意している	100%	0%	研修の実施や物理的な措置ができないよう厳格化するなど徹底している	漏洩がないようリスクマネジメントの意識を高めていく
	36) 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための工夫をしている	88%	12%	HPやSNSを利用した文字での発信などを中心に実施している	より精度を高めていく
37) 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%	地域的に開かれていない。未実施	ニーズがあれば対応していく	

小児科	緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアルを参照し、職員や保護者に周知している	75%	25%	職員には周知・徹底を図っている	保護者にも回覧システムなどを活用して、周知の徹底を図っていく
	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	決められた避難訓練などを実施している	保護者にも実施したことを周知していく
	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	法に基づいた対応や研修を実施している	精度を高めていく
	虐待防止委員会及び身体拘束適正化検討委員会を定期的に開催し、その結果について保護者に周知徹底している	100%	0%	適切に開催し、ミーティングなどで周知徹底している	途切れることなく適切に開催をしていく
	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に説明し了解を得た上で、保護者等データベース計画に反映している	100%	0%	入所時の説明や、同意書の作成など説明して了解を得ることができているが、計画には記載していない	常に見直ししていく必要がある、記載が必要が検討する
	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0%	100%	食事関係がないので、あまり関係はないが必要な場合は指示書もらった対応をしている	ニーズがあれば対応していく
ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	より関連に効果のある書き方を模索している	精度を高めていく	

〇この「事業所における自己評価結果(分科)」は事業所全体で行った自己評価です。